

環境学習をリードする こども環境活動支援協会の取り組み

弘本由香里

こども環境活動支援協会の誕生とNPO法人化

1995年から環境省が全国で取り組みを進めている「こどもエコクラブ」の基本モデルとなった、西宮市の「地球ウォッチングクラブ(EWC)」事業(1992年にスタート)。当初2001年までを目標に始められたこの事業は、子どもたちが自主的・継続的・総合的に環境活動に関わることのできるしくみを、家庭・地域・学校という子どもたちをとりまく生活領域全体で実現することを目指して発展していった。1998年には、西宮市が呼びかけ人となって、市民・事業者・行政のパートナーシップ組織「こども環境活動支援協会」を設立(2001年12月時点での会員数は、団体会員100団体、個人会員170名)。西宮市と同協会が共同でEWC事業を実施する体制をつくり、市内の全小学生2万4千人を対象に「エコカード」を配布、同時に学校及び地域の団体・事業者・行政に関わる大人1500人に「エコスタンプ」を配布。カードとスタンプを通して、地域が一体となり、子どもと大人がコミュニケーションし、環境活動を支援するシステムへと成長してきている。

EWC事業をかわきりに、同協会は、環境省主催の「こどもエコクラブアジア太平洋会議」への企画協力、国際的な子ども環境活動のネットワークづくり、自然体験活動指導者養成講座の実施、企業活動と環境教育をつなぐためのプロジェクトの設置など、幅広い事業活動を展開。1999年には、環境庁の「総合環境学習ゾーン・モデル事業」の拠点施設にも認定され、環境学習をリードする団体としての社会的評価も高まってきた。こうした実績をより発展的に生かし、社会の要請に責任を持って応えていくために、2002年4月、同協会は特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を得て、新たなスタートを切ったところである。今年度の事業方針の概要は以下のとおり。

こども環境活動支援協会の事業方針概要(2002年度)

(1) 地域に根ざした持続可能な社会に向けた教育の調査研究事業

- 西宮市EWC事業の実践を通じた地域に根ざした環境学習システムの研究
- 西宮市の環境学習都市に向けた取り組みへの支援

(2) 自然体験活動を推進するための支援事業

- 西宮市の恵まれた自然環境を活用した自然体験活動の推進
- 西宮市甲山教育キャンプ場などの管理運営を受託
- 自然体験活動の指導者養成と活用を促進するための事業展開

(3) 企業会員と連携した環境教育事業

- 企業活動と環境教育を結ぶプロジェクトの実施

教員や児童を対象とした学習活動への企業会員の派遣や事業所を活用した活動の展開

企業会員との連携による環境学習プロジェクトの実施

企業との連携による体験学習活動の普及に向けた研究事業の実施

(4) 世界の子どもたちの環境活動交流事業

環境活動を紹介するホームページ「地球キッズネットワーク」の運営

米国ヴァーモント州との交流事業

国際的な環境教育事業への協力

(5) 広報活動

広報誌の発行

出版企画

インターネットを活用した広報活動

地域をベースに事業者と連携した環境学習の展開へ

こども環境活動支援協会の特徴は、地域をベースに子どもと大人がともに学び合うところにある。

今年から新たに、「こどもエコ体験ゼミナール」という取り組みも始まる。西宮市の自然体験から、地域の商店街や企業で働く大人とのコミュニケーションを介して、身の回りの環境問題を総合的に体験し、これからの生活をどうしていくかを考え、発表する。地元商店街や企業等の協力を得て、次のような充実したプログラムが用意されている。

開会式&作戦会議、西宮の商業の歴史ウォッチング、環境にやさしい家づくり・緑化でやさしい町づくり、資源改修の現場ウォッチング、エコエネルギーを使ったケーキ工場、エコファームでエコクッキング、エコ活動発表の作戦会議1、エコ活動発表の作戦会議2、エコ活動発表&閉校式

大人も顔負けのセミナーである。

ところで、冒頭に紹介した、EWC事業は、西宮市の全小学生を対象とし始めた1998年以降でも、既に5年目を迎えている。また、当初事業がスタートした1992年から参加した子どもたちは、既に20前後の青年に成長している。こうした青年たちが、新たな環境活動の担い手としてたくましく育ちつつある。

地域をベースに事業者が参画して環境学習を展開していくことの意義、環境学習の経験を持つ次世代が、着実に育ちつつある事実。同様の活動は西宮だけでなく、今後各地で着実に広がっていくものと思われる。われわれ地域の事業者はその重要性について、いっそう認識を深め、ともに学び合う関係を積極的に築いていかなければならないだろう。